

茅ヶ崎市文化生涯学習プラン骨子(案)の修正について

イ 文化生涯学習に関するアンケート調査

本プランを策定するための基礎資料とすることを目的として、市民から意見・提案などを聴取するためのアンケート調査を令和5年度と令和元年度に実施しました。主な結果は次のとおりです。

令和5年度調査(実施期間:令和5(2023)年6月15日～7月6日 回答者:359名)

令和元年度調査(実施期間:令和2(2020)年1月8日～2月14日 回答者:416名)

(ア) 【どのようなことがあれば自分が文化芸術の鑑賞に関心をもてると思いますか。】

令和5年度調査、令和元年度調査ともに「情報が入手しやすくなる」が最も多い回答となりました。次いで、令和5年度調査では「今より時間的な余裕ができる」、令和元年度調査では、「近所でたくさん催しが行われるようになる」となっています。

★カッコ書きは令和元年度調査分

回答項目(複数回答可)	回答数	回答割合
1 情報が入手しやすくなる	135 (262)	18.4% (23.9%)
2 今より時間的な余裕ができる	111 (129)	15.2% (11.7%)
3 近所でたくさん催しが行われるようになる	102 (200)	13.9% (18.2%)
4 今より経済的な余裕ができる	86 (93)	11.7% (8.5%)
5 自分の地域のアーティストや作品、文化イベントが全国的、世界的に有名になる	73 (99)	10.0% (9.0%)
6 小さな子どもを連れて行ける施設や行事が充実する	70 (78)	9.5% (7.1%)
7 家族や親しい知人・友人に誘われる機会が増える	43 (114)	5.9% (10.4%)
8 バリアフリーや高齢者・障害者対応サービスが整っている施設や行事が充実する	42 (82)	5.7% (7.5%)
9 夜間にたくさん催しが行われるようになる	20 (34)	2.7% (3.1%)
10 関心がない・分からない	37 (0)	5.1% (0.0%)
その他	14 (7)	1.9% (0.6%)
合計	733 (1,098)	

その他の意見:「質の高い文化・芸術にふれあえる」、「安心、安全な環境」など。

(イ) 【どのようにしたら茅ヶ崎の歴史を広めることができると思いますか。】

令和5年度調査、令和元年度調査ともに「広報ちがさきでの周知」が最も多い回答となりました。次いで、令和5年度調査では「資料等の展示事業」、令和元年度調査では「公共施設で開催する市史講座での啓発」となっています。

★カッコ書きは令和元年度調査分

回答項目(複数回答可)	回答数	回答割合
1 広報ちがさきでの周知	167 (208)	32.0% (28.0%)
2 資料等の展示事業	85 (51)	16.2% (6.9%)
3 公共施設で開催する市史講座での啓発	76 (202)	14.6% (27.2%)
4 公共施設等での関係チラシの配布	75 (99)	14.4% (13.3%)
5 出前講座等の実施	51 (153)	9.8% (20.6%)
その他	68 (30)	13% (4.0%)
合計	522 (743)	

その他の意見:「学校や幼稚園等、学べる所」、「アプリなどの活用」など。

(ウ) 【今より学習しやすくなるためには、今後どのような取り組みがあればいいと思いますか。】

令和5年度調査では「施設(学習できる場・交流できる場)の充実」が、令和元年度調査では「講座、講演会などの充実」が最も多い回答となりました。次いで令和5年度調査では「学びたい人の交流の場の充実」、令和元年度調査では「施設(学習できる場・交流できる場)の充実」となっています。

★カッコ書きは令和元年度調査分

回答項目(複数回答可)	回答数	回答割合
1 施設(学習できる場・交流できる場)の充実	161 (168)	24.4% (18.5%)
2 学びたい人の交流の場の充実	121 (151)	18.3% (16.6%)
3 講座、講演会などの充実	113 (258)	17.1% (28.5%)
4 会場の確保や広報等による市の活動支援	87 (111)	13.2% (12.2%)
5 学んだことを生かせる場の提供(講座の講師・ボランティア活動等)	72 (123)	10.9% (13.6%)
6 学習成果を活用した活動事例の紹介	54 (50)	8.2% (5.5%)
7 学習の成果を評価する取り組み(修了証の交付や単位の認定等)	35 (39)	5.3% (4.3%)
その他	17 (7)	2.6% (0.8%)
合計	660 (907)	

その他の意見:「生活や趣味に直結する内容の講座やパネル展示、SNS や YouTube での発信など。」、「学習は講座・講演だけではないと思う」など。

3 市民意見の聴取

(1) 文化生涯学習に関するアンケート結果

本プランの第2章にアンケートの概要及び結果の一部を掲載しています。

第2章に掲載していない結果を一部抜粋し、資料編で紹介します。

ア【どうすれば鑑賞以外の創作、出演など活動に参加しやすくなると思いますか。】

令和5年度調査、令和元年度調査ともに「魅力ある内容の活動が行われる」が最も多い回答となりました。次いで、令和5年度調査では「情報が入手しやすい」、令和元年度調査では「住まいや職場の近くで活動に参加できる」となっています。

★カッコ書きは令和元年度調査分

回答項目(複数回答可)	回答数	回答割合
1 魅力ある内容の活動が行われる	146 (245)	15.8% (18.7%)
2 情報が入手しやすい	102 (157)	11.0% (11.9%)
3 初心者向けの活動が提供される	100 (154)	10.8% (11.7%)
4 住まいや職場の近くで活動に参加できる	96 (164)	10.4% (12.5%)
5 活動のための時間が取れる	93 (105)	10.1% (8.0%)
6 活動に参加するための費用の負担が軽い	90 (108)	9.7% (8.2%)
7 一緒に活動する仲間ができる	72 (110)	7.8% (8.4%)
8 小さな子どもを連れて行ける対応サービスが充実する	59 (47)	6.4% (3.6%)
9 年齢や障がいの有無にかかわらず、参加しやすい施設整備や対応サービスが導入される	53 (74)	5.7% (5.6%)
10 土日祝日や夜間などにも活動が行われる	41 (58)	4.4% (4.4%)
11 参加する機会や活動の成果を発表する機会が多く提供されるようになる	29 (75)	3.1% (5.7%)
12 関心がない・分からない	33 (8)	3.6% (0.6%)
その他	11 (9)	1.2% (0.7%)
合計	925 (1,314)	

その他の意見:「オンラインの活用」、「大衆的な文化以外のマイナーな創作を共有する場がある」など。

イ【学んだ知識や技術をどのように生かしたいですか。】

令和5年度調査、令和元年度調査ともに「自分の人生を豊かにするため」が最も多い回答と

なりました。次いで、令和5年度調査では「家庭や日常の生活に生かすため」、令和元年度調査では、「健康の維持・増進に役立てるため」となっています。

★カッコ書きは令和元年度調査分

回答項目(複数回答可)	回答数	回答割合
1 自分の人生を豊かにするため	230 (323)	36.0% (38.4%)
2 家庭や日常の生活に生かすため	136 (144)	21.3% (17.1%)
3 健康の維持・増進に役立てるため	97 (165)	15.2% (19.6%)
4 地域や社会での活動に生かすため	75 (149)	11.8% (17.7%)
5 仕事や就職の上で生かすため	67 (56)	10.5% (6.6%)
6 学習したいと思わない	16 (0)	2.5% (0%)
7 生かしたいと思わない	10 (0)	1.6% (0%)
その他	7 (5)	1.1% (0.6%)
合計	638 (842)	

その他の意見:「学習する内容による」、「東南アジア等アジア地域の若手交流を促進したい」など。

ウ【茅ヶ崎の文化や学びに関する環境を充実させるために、何が重要だと思いますか。】

令和5年度調査、令和元年度調査ともに「劇場、美術館、博物館、生涯学習施設などの施設の充実」が最も多い回答となりました。次いで、令和5年度調査では「子どもが文化芸術や様々な学びに触れる機会の充実」、令和元年度調査では、「公演、展覧会、芸術祭などの発表の機会の充実」と「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」が同数の回答となっています。

★カッコ書きは令和元年度調査分

回答項目(複数回答可)	回答数	回答割合
1 劇場、美術館、博物館、生涯学習施設などの施設の充実	148 (157)	16.8% (12.9%)
2 子どもが文化芸術や様々な学びに触れる機会の充実	140 (125)	15.9% (10.2%)
3 地域の芸能や祭りなどの継承・保存	87 (147)	9.9% (12.1%)
4 創作活動ができる施設や情報の充実	83 (132)	9.4% (10.8%)
5 歴史的な建物や遺跡などを生かしたまちづくり	77 (127)	8.8% (10.4%)
6 工芸、ファッション、メディアなど文化芸術に関連する産業の振興	71 (61)	8.1% (5.0%)
7 公演、展覧会、芸術祭などの発表の機会の充実	61 (147)	6.9% (12.1%)

8 芸術家、学びの講師、文化・生涯学習団体の活動の支援	52 (64)	5.9% (5.2%)
9 地域の芸術家と接する機会の充実	44 (130)	5.0% (10.7%)
10 地域の芸術家の作品の積極的な活用	40 (54)	4.6% (4.4%)
11 著名な芸術家の招へい	39 (61)	4.4% (5.0%)
12 特にない・分からない	28 (0)	3.2% (0%)
その他	10 (15)	1.1% (1.2%)
合計	880 (1,220)	

その他の意見:「オンラインを活用できる人材」、「コミュニティの活性化」など。

1 プランが目指す姿

文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養※するとともに、人々の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力ある社会を形成する源泉です。新たな社会を構築するためには文化の創造が求められますが、生涯学習はその基盤となる重要な機能です。

本プランでは、**目指す姿**を次のとおり定め、文化芸術と生涯学習に関する施策を一体として進めることで、誰もがいつでも学べ、生きがいを持って自分らしく心豊かに暮らす文化生涯学習のまちの実現を目指すとともに**総合計画の将来都市像の実現に寄与します。**

目指す姿

みんなが学び未来を創造する文化生涯学習のまち ちがさき

「みんなが」

茅ヶ崎の文化芸術・生涯学習の**主役**は市民です。文化生涯学習活動へ参加する市民が増える取り組みが進められているとともに、市民、事業者、市が相互に連携・協力し、各々できることを考え、役割分担をしながら取り組みを進めていることを示します。

「学び」

学習は創造性を発揮するための基盤であり、創造的であるためには、継続的な学習を行っていく必要があります。誰もが生涯にわたって、いつでも知識や技術を習得できるよう、様々な学習の場や多様な人が交流する環境が充実し、学んでいることを示します。

「未来を創造する」

未来を創造するには、様々な「知」が蓄積され、交換され、化学反応を起こすことが必要です。市民が茅ヶ崎の文化に関する知識や理解を深められるよう、地域の歴史や資源が継承されるとともに誰もが文化芸術に触れる環境が充実し、次世代育成の取り組みが進められていることを示します。

※ 涵養(かんよう):水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと養い育てること。

・様々な手法による講座の開催

生涯学習講座の開催に当たっては、従来の対面講座を希望する方々、対面では足を運べない方々、様々な場所から気軽に参加したい方々など、多様な人が参加・交流できるよう、従来からの対面型の講座やオンラインを活用した講座、それらを組み合わせたハイブリッド型の講座など、様々な手法を用います。

・情報提供の充実

市民まなび講座、まなびの市民講師や生涯学習サークル一覧等を網羅した生涯学習ガイドブックを発行するとともに、市が実施する学びの情報を集約した生涯学習ポータルサイト※を運営するなど、様々な情報発信ツールを活用し学びに関する情報提供の充実を図ります。

③インクルーシブ※な事業展開・施設運営

・アウトリーチ※事業の実施

文化芸術に触れる機会の少ない方や様々な事情で施設まで足を運べない方々に生の文化芸術を届けることを目的として、福祉施設や人が集まる場所などへのアウトリーチ事業※を実施します。



・市民の特性やニーズに応える多様な場の提供

子育て中の保護者の息抜きの場や新たな仲間づくりの場、交流の場となる事業や子どもの居場所の確保を目的とした事業など、市民のニーズに応える多様な場を提供します。

・多様な人が活動に参加できる環境の整備

障がい者、ジェンダー※、世代等を問わず、様々な背景を持つ方々が平等に文化生涯学習活動に参加し、体験できる機会を提供します。

また、施設における合理的配慮※の実現に向け、障がいの特性に配慮した情報保障(日本語字幕、手話通訳、音声ガイド等)の充実や物理的なバリアへの対応など、施設のバリアフリー化を進めます。

※ポータルサイト：インターネットにアクセスするときの入口となるウェブサイトのことをいいます。本プランでは文化生涯学習活動を探すためのウェブサイトを指しています。

※インクルーシブ (inclusive)：包摂 (ほうせつ) 的な、全てを包み込むという意味。エクスクルーシブ (exclusive：「排除的な、排他的な」) の反対の概念であり、様々な背景を持つあらゆる人が排除されない状態を指しています。

※アウトリーチ：本来の意味は「手を伸ばすこと」。本プランでは、日頃、文化芸術や生涯学習に触れる機会が少ない市民に対して、主に施設外での事業の実施や出前講座等の働きかけを行う活動を意味しています。

※ジェンダー：生物学的な性別ではなく、社会的・文化的につくられた性別のことです

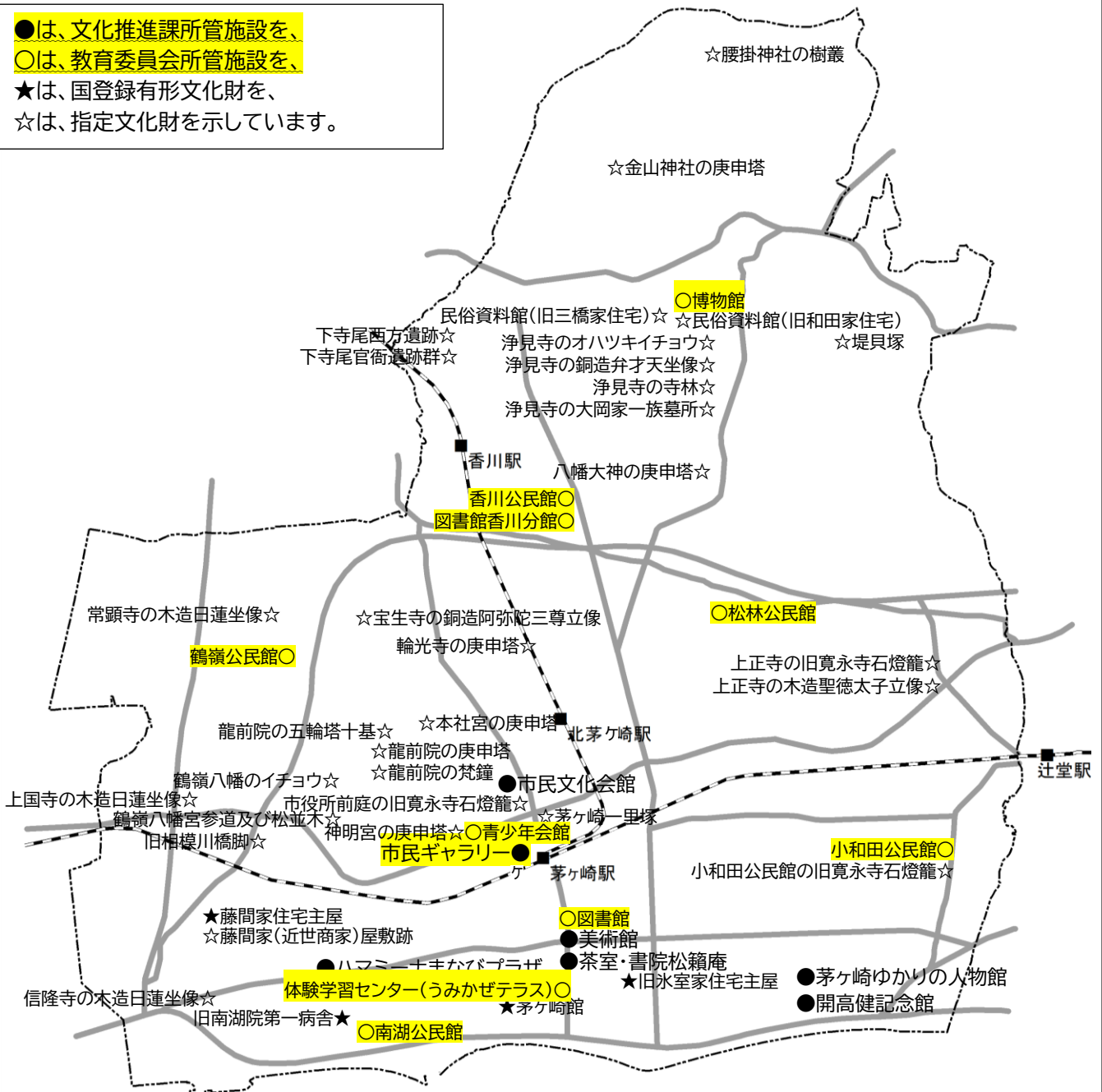
※合理的配慮：障がいのある方々の人権が、障がいのない方々と同じように保障されるとともに、教育や就業、その他社会生活において平等に参加できるよう、それぞれの障がい特性や困りごとに合わせて行われる配慮のことです。令和3 (2021) 年6月、行政・学校・企業などの事業者に対して提供を義務付けられました。

【コラム】文化生涯学習活動拠点と文化財

市民の文化生涯学習活動の拠点として、市民文化会館、美術館、茅ヶ崎ゆかりの人物館、開高健記念館、市民ギャラリー、ハマミーナまなびプラザ、茶室・書院松籟庵などの施設の整備が行われてきました。このほか、博物館、公民館、青少年会館、体験学習センター(うみかぜテラス)、図書館等と連携し、本プランの推進を図ります。

国登録有形文化財としては、7件登録されています。指定文化財としては、国指定5件、県指定9件、市指定31件の計45件の文化財が指定されています。(令和4(2023)年4月現在)

- は、文化推進課所管施設を、
- は、教育委員会所管施設を、
- ★は、国登録有形文化財を、
- ☆は、指定文化財を示しています。



市民の交流の場、学習成果の発表及び鑑賞の場を提供することで、意図的な学習を促進し、生涯学習の振興を図ります。

また、市主催事業等を実施し、学びの機会を提供するとともに、生涯学習に関する情報を提供し、生涯学習を推進します。

さらに、事業者やNPO法人等民間団体とも連携し、学習成果を地域に貢献する豊かな社会づくりに取り組みます。

ク 市民ギャラリー

市民に美術作品等の発表と鑑賞、創作活動等の場を提供し、市民の文化の向上に寄与するために設置された施設です。

展示室はスポットライトや展示パネルを備えたギャラリー機能を有しており、本格的な展示ができ、創作室は絵画や工作など、幅広い創作活動での利用が可能です。加えて、集会機能として、会議室も有しています。

市では、人口減少や少子高齢化等を迎える中、将来にわたる持続可能な行財政運営のため、全ての公共施設等を対象に統合や複合化、廃止等を検討しています。その一環として、市民ギャラリーは、近隣の類似施設に機能を集約しながら、段階的に廃止していくこととしています。(展示室・会議室:令和6年12月末で廃止、創作室:廃止時期未定)

上記施設のほか、教育委員会が所管する博物館、公民館、青少年会館、体験学習センター(うみかぜテラス)、図書館等の施設と連携し、本プランの推進を図ります。

④公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団の役割

茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団(以下、「財団」という。)は、文化芸術活動やスポーツ活動の振興を図るための事業を行い、市民が心豊かで潤いのある生活を送り、健やかで活力ある地域の形成と発展に寄与することを目的として平成8年(1996)4月に設立された市の外郭団体です。

平成24(2012)年4月には財団法人茅ヶ崎市都市施設公社のスポーツ関連施設の管理運営事業を統合し、平成25(2013)年4月に公益財団法人へ移行しました。

財団はこれまで茅ヶ崎の文化芸術の振興のため、市の施策の重要な役割を担ってきました。今後も、市と密接な連携を図りながら、市民の自主的で創造的な文化芸術活動を支援し、豊かで活力のある地域社会の形成及び発展に寄与することが求められています。